

(対象事業：地域の中核館として他館や他機関等と連携して行う事業)

事業名：兵庫・岡山・広島三県合同企画
展「津々浦々をめぐる一中世瀬戸内の流
通と交流」

事業者名：兵庫・岡山・広島三県合同企画展実行
委員会

連携事業館名：兵庫県立歴史博物館・岡山県立博
物館・広島県立歴史博物館（事務局）

住所：広島県福山市西町2-4-1

TEL：084-931-2513

FAX：084-931-2514

HPアドレス：<http://www.manabi.pref.hiroshima.jp/rekishih/>

①施設概要

兵庫・岡山・広島三県合同企画展実行委員会は、企画展「津々浦々をめぐる一中世瀬戸内の流通と交流」を開催するために組織したもので、事務局は広島県立歴史博物館に置く。委員会は三館の館長及び担当職員による委員、各県教育委員会主管課庶務担当係長による監事によって構成される。

②事業の意図目的

瀬戸内海に面する三県の博物館が共同で展覧会を企画することにより、近年の歴史学・考古学の研究の進展によって明らかにされてきた中世瀬戸内をめぐる物資の流れや人々の交流する姿を描き出すとともに、海と深く結び付いてきたこの地域の未来を展望することを意図している。

③事業概要

開催した展覧会の会期は次のとおりである。

(1) 兵庫会場：平成16年7月24日（土）～8月22日（日）

(2) 岡山会場：平成16年9月3日（金）～10月3日（日）

(3) 広島会場：平成16年10月15日（金）～11月14日（日）

また、それぞれの会場では会期中に講演会、展示解説会、体験学習会、学校教育との連携による展示学習、公開シンポジウムなどの関連事業を実施した。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（ 展示解説図録 ）
作成した報告書等
ビデオ（ ）
冊子（ ）
その他（ ）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 12,580 人

内 訳

兵庫会場 4,882 人、岡山会場 3,777 人、広島会場 3,921 人

(1) 事業の実施状況について

a) 企画の経緯

地域における生涯学習拠点として、公立博物館が果たすべき役割は近年ますます高まってきたが、館の運営をめぐる状況はそれとは逆に厳しさを増しつつある。停滞する経済状況や嗜好の多様化などを背景に入館者が減少傾向にある一方で、設置者である自治体の財政難により事業費は削減を余儀なくされている。硬直化した予算による博物館運営は柔軟な事業展開を阻害し、事業本来の目的やその質を根本的に問い直し、博物館の機能を高めていく機会を失いがちである。

この企画を呼びかけた広島県立歴史博物館もその例外ではなく、年々削減される事業費によって館が独自に企画する展覧会の内容は制約を受け、優れた文化財の公開によって地域住民の歴史・文化への関心や理解を深めるという館の設置目的さえも、十分に果たすことのできない状況さえ危惧されていた。

そうした状況を打破する一つの策として浮かび上がってきたのが、他館と共同で企画展を開催することであった。複数館のスタッフが共同で展覧会を企画・運営することにより、各館のこれまでの調査・研究の蓄積を展示に盛り込むことができ、展示の質を高めるとともに、解説パネルや図録などの共通経費もある程度抑制できるのではないかと考えた。

広島県立歴史博物館から、こうした考えを平成14年度までに兵庫県立歴史博物館・岡山県立博物館に諮ったところ、趣旨に賛同していただくことができ、平成15年4月に合同企画展開催に向けた最初の連絡会議を開催した。この会議によって、展覧会のテーマと、実行委員会方式による開催、芸術拠点形成事業への申請などの方針が決定した。

b) 開催に向けての準備

平成15年度中に、総務部門・学芸部門それぞれのワーキング・グループ会議を数回実施した。総務部門では実行委員会設立に向けての規約の制定、予算の立案などを進め、学芸部門では展示テーマにもとづき展示候補資料の選定を進めていった。並行して各館の開催時期を調整し、平成16年度の夏から秋にかけて、各館一ヶ月間ずつ開催することを決定し、展示替えが必要な資料については、それらを含めた展示内容を検討していった。

こうした作業に基づき、個別資料の調査や出陳交渉、あるいは図録や解説パネルの編集・執筆を進めることにしたが、この段階では芸術拠点形成事業の採否が明らかでなく、事業総額も未定であるため、変更の含みを持たせながら資料を確定していく必要があった。



兵庫会場入口

c) 展覧会の開催

平成16年度に入ると、実行委員会を設立するとともに芸術拠点形成事業へ申請し、具体的に事業を実施することになった。

この頃までには図録の原稿が揃いつつあったため、その編集・印刷作業に取りかかり、図録・ポスター・チラシ等の印刷業者を入札により決定した。また、芸術拠点形成事業の助成額の内示に基づき借用資料を最終的に確定し、資料の借用・輸送・返却計画、各会場の展示計画等を決定し、これについても業者を入札により決定した。展示図録の印刷と並行して、各会場の展示計画を確定し、それに基づいて共通で作成するパネル・キャプション等の原稿作成に入った。

兵庫会場の開催される7月には、三館学芸員が分担して展示資料の借用・輸送を行った。展示会場における資料の陳列も、資料ごとの分担に基づいて作業を実施し、兵庫・岡山・広島の順で展覧会を巡回させていった。一部の資料については公開日

数が制限されているものもあり、すべての会場で展示することができないため、資料の移送と同時に別資料への借り換えを行った。

各会場でのオープニング行事では、学芸員による展示解説を行ったが、この際も各館学芸員の分担に基づいて資料説明を行った。またそれぞれの会場では、会期中に展示解説会、講演会、体験学習会などを実施したほか、各館のボランティアによる展示解説、高校生による展示解説シート作成などの事業も実施した。

三会場開催後は、再び各館の担当に基づいてそれぞれの資料所蔵者への返却を行い、すべての関連事業を終了した。

なお広島会場会期中には、当事業のテーマに関連する中世交通史のご研究を進められている皇太子殿下のご視察を受けた。その際にも、三館学芸員の分担によりご説明を行った。



岡山会場テープカット



広島会場風景

(2) 地域との連携について

当事業では、中世瀬戸内海をめぐる人々の交流の実態を浮き彫りにすることを目的に、瀬戸内地域に隣接する兵庫・岡山・広島三県の歴史系博物館が連携した。また、それぞれの館がこれまでの調査・研究によって培ってきた地域とのつながりを背景として、各地域に伝えられてきた優れた文化財を借用・出陳することができ、三県をはじめとする多くの方々にこれらの文化財とその歴史的背景に触れていただくことができた。

また、事業の広報を効果的に行うため、各会場では次のとおり地元新聞社と共催した。

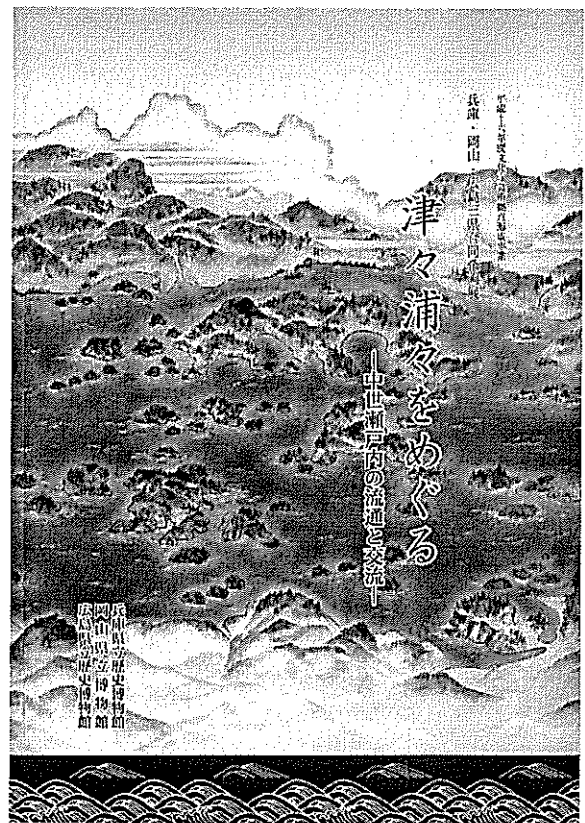
- ◆ 兵庫会場：神戸新聞社
- ◆ 岡山会場：山陽新聞社
- ◆ 広島会場：中国新聞備後本社

広島会場では、展示テーマに関する最新の研究情報を多くの方々に理解していただくための機会として、文部科学省特定領域研究「中世考古学の総合的研究—学融合を目指した新領域創生—」（領域代表者：中央大学文学部教授 前川要）との共催による公開シンポジウム「中世瀬戸内の流通と交流」を実施した。なおシンポジウムの成果は、報告集として出版することを計画している。

(3) 成果物について

a) 展示解説図録

兵庫・岡山・広島三県合同企画展実行委員会編
『津々浦々をめぐる—中世瀬戸内の流通と交流—』兵庫・岡山・広島三県合同企画展実行委員会、2004年7月
A4版、138ページ



展示解説図録

(4) 参加者の反応

今回の事業では三会場それぞれでアンケートを実施したが、来館者の反応はいずれも同様の傾向を示していた。

事業の趣旨についてはおおむね理解していただくことができ、瀬戸内海を通じて中世から人々がさまざまに交流していた実態が、三博物館の連携によって示されている点を評価する意見が多かった。また、通常は一堂に会することの少ない資料が集められている点を評価していただく方も多く、連携事業の効果が入館者に伝わっていることを確認することができた。さらに、兵庫・岡山・広島の三県だけでなく、香川・愛媛など四国側の館とも連携して瀬戸内流通の全体像を知りたいといった建設的な意見もあった。

その一方、解説文の文字が小さい、よく似た考古資料が多い、説明がわかりにくいといった意見が各会場に共通して認められた。最終的な展示資料の確定が遅れたこともあり、解説パネル等の検討が十分にできなかったことが如実に反映されており、個別資料の情報を整理してわかりやすく提示するといった点については、今後への課題として謙虚に反省しなければならない。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

当該事業を実施したことによる最大の効果は、来館者の反応にも示されているとおり、中世瀬戸内の流通・交流に関連する重要資料を一堂に展示し、それらの示す内容をそれぞれの地域住民に提示することができた点にある。これは、連携した三館がこれまで着実に進めてきた調査・研究の成果を持ち寄り、一つのテーマのもとに統合したことによって初めて可能になったことである。特に、中世遺跡の発掘調査成果は新聞やニュースなどによってその都度報道されることはあっても、それらが相対として中世社会の歴史像の再構築にどのように結びついているのかは一般市民には理解しにくく、三館の連携によって地域社会の結びつきを具体的に示すことのできた点は、大きな成果であった。

また、三館ではこれまでマスコミなどが参加する巡回展を受け入れたことはあったが、館が主体的に巡回展を企画・運営するのは初めてであった。今回の事業では三館の職員が企画・運営・契約などすべての業務を協力・分担することにより、巡回展の実務に関わるノウハウを蓄積することができた。この成果は、今後の各館の事業展開に結びつく成果として非常に貴重なものである。

さらに、当初意図した経費の抑制という点についても、資料の輸送業務やポスター・チラシ・図録等の印刷を事業全体で一括して入札・契約したことによって、予想以上に経費を抑えることができた。それにより図録等の質やボリュームを高めることが可能となり、これも三館の連携による大きな成果の一つである。